Osaka University Knowledge Archive

Title	関節突起骨折を伴わない下顎窩骨折の1例
Author(s)	濱田, 傑; 内橋, 隆行; 榎本, 明史 他
Citation	日本顎関節学会雑誌. 2012, 24(特別), p. 113-113
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89882
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

B-2-3-4

関節突起骨折を伴わない下顎窩骨折の 1 例

Fracture of glenoid fossa without condylar process fracture; report of a case

濱田　傑[1]，内橋隆行[1]，榎本明史[1]，中原寛和[1]，
磯村恵美子[2]，綿谷和也[1]
[1] 近畿大学医学部附属病院歯科口腔外科
[2] 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔病因病態制御学講座
口腔外科学第一教室

目的：きわめて稀な下顎窩骨折の 1 例を報告する．
症例：52 歳女性，2011 年 8 月初旬自転車で転倒し左側おとがい部を強打し意識消失した．近医脳神経外科で外傷性くも膜下出血（軽度），左側おとがい部裂傷の診断を受け，縫合処置と経過観察を受けた．くも膜下出血から回復後も，左側側頭部痛，頭痛が消失せず，9 月下旬開口障害と咬合違和感を主訴に当科に来院した．小児結核の既往があり，また 4 年前から未破裂脳動脈瘤径 2mm の経過観察を受けていた．現症では，顔貌は対称的で，切歯間開口域は 31mm と開口制限を認め，左下顎第二大臼歯欠損と咬合時の左側臼歯離解が認められた．回転および四分画パノラマ X 線写真では異常を発見できなかったが，CT で左側下顎窩の天蓋部小骨片が遊離し挙上しているのが認められた．
考察：文献的には，下顎骨骨折に合併したものが大半で下顎窩単独の骨折はきわめてまれであり，また内耳機能障害による聴力低下，平衡機能障害などの合併が報告されているが，本例では合併は認めなかった．顎関節に外力がおよんだ場合，関節突起が側頭骨よりも先に骨折するのが通常であるが，本例では下顎窩単独の骨折が見られた．
結論：急性外傷後の顎関節骨折には，関節突起骨折ばかりでなく少数ながら下顎窩骨折も存在し，診断に CT が有用であった．